

# 日本海事新聞社

編集 ☎(03)3436-3221 FAX(03)3436-6553  
広告 ☎(03)3436-3222 FAX(03)3436-3247  
社購 ☎(03)3436-3223 FAX(03)3436-3273

支局  
関西支局 〒530-6109 大阪市北区中之島 3-3-23 ☎(06)6448-3691 FAX(06)6448-7749  
静岡通信部 〒410-0012 沼津市岡一色 101-40 ☎(055)921-4072 FAX(055)926-2111

## 情報 待ってます!

ニュースや写真、ご意見、投稿(800字程度)など、  
情報をお寄せください。 [tokyo@jmd.co.jp](mailto:tokyo@jmd.co.jp)

# 卒業生「港湾の仕事」の魅力 熱く語る

## 高校関係者らにPR



卒業生が「港湾のしごと」をテーマに仕事内容などを紹介

「この後、卒業生が「港湾のしごと」をテーマに自らの仕事内容などを紹介。神菱港運の谷口敏章常務取締役は「港湾にはかつての悪いイメージはない。会社訪問などで現場を見てほしい」と呼び掛け、神戸港湾労働組合協議会の事務局長で神戸サンシー港運に勤務する高島弘司氏は、自身が港湾業界に就職した動機などを話し「港の仲間に加わってほしい」と訴えた。

ガントリークレーンのオペレーターとして活躍する住井運輸の若狭蔵光氏は「コンテナ荷役を確実にできたときは達成感を感じる」と話し、是則運輸倉庫の植田あきつ氏は「通関業務の内容について説明し、貿易は多くの人で成る仕事」と仕事を通じた人のつながりを強調。堺泉北港で中古車の輸出入業務を担当する藤原運輸の中静佳さんは、女性目線で貿易事務を紹介し「港の仕事は魅力がある」と後輩の入職に期待した。

来賓あいさつでは、神戸市みなと総局の金谷勇一経営企画担当局長が「神戸港にとっても海事人材の育成は不可欠。(若い人が)夢と希望が持てる神戸港に尽力したい」と述べ、文部科学省の木村直人大臣官房会計課長は「産官学の連携で地域との関わりを深めてい

たい。来賓あいさつでは、神戸市みなと総局の金谷勇一経営企画担当局長が「神戸港にとっても海事人材の育成は不可欠。(若い人が)夢と希望が持てる神戸港に尽力したい」と述べ、文部科学省の木村直人大臣官房会計課長は「産官学の連携で地域との関わりを深めてい

たい。来賓あいさつでは、神戸市みなと総局の金谷勇一経営企画担当局長が「神戸港にとっても海事人材の育成は不可欠。(若い人が)夢と希望が持てる神戸港に尽力したい」と述べ、文部科学省の木村直人大臣官房会計課長は「産官学の連携で地域との関わりを深めてい

## 港湾短大神戸校

この後、卒業生が「港湾のしごと」をテーマに自らの仕事内容などを紹介。神菱港運の谷口敏章常務取締役は「港湾にはかつての悪いイメージはない。会社訪問などで現場を見てほしい」と呼び掛け、神戸港湾労働組合協議会の事務局長で神戸サンシー港運に勤務する高島弘司氏は、自身が港湾業界に就職した動機などを話し「港の仲間に加わってほしい」と訴えた。



あいさつする松原校長

くことが大事」と地域による人材育成の重要性を説いた。

続いて、神戸港振興協会の森田潔参事が、神戸開港からの歴史について港湾荷役の変遷を中心に講演。市みなと総局の小嶋省一計画部港湾計画課長は30年先を見据え策定した神戸港の将来構想について説明した。

高校や就職支援関係者らに「港湾のしごと」の魅力を知ってもら

うイベント「港湾ポリテックビジ

ョン」が13日、神戸市中央区の神

戸ポートオアシスであった。港湾

・物流業界の人手不足対策として

港湾職業能力開発短期大学校(港

湾短大)、神戸校が初めて企画。約

120人の参加者を前に、港湾現

場の最前線で活躍する卒業生が就

職の動機や仕事の魅力について熱

く語った。

開会あいさつで松原元一校長は

「今年度に短大20年を迎えたのを

機に、業界の人手不足、地方創生

の人材育成を目的に開催した。地

域を支える神戸港での仕事や魅力

を知っていただきたい」と述べ、

港湾業界への入職に期待を寄せ

た。

来賓あいさつでは、神戸市みな

と総局の金谷勇一経営企画担当局

長が「神戸港にとっても海事人材

の育成は不可欠。(若い人が)夢と

希望が持てる神戸港に尽力した

い」と述べ、文部科学省の木村直

人大臣官房会計課長は「産官学の

連携で地域との関わりを深めてい